令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 17	公益目的事業　19
主査名	宮武宏輔　東京経済大学准教授	
研究テーマ	ラストマイルを担う貨物軽自動車運送業者と宅配便事業者のネットワーク再編に関する研究	

研究の目的：

ネット通販サービスの発展と多様化により消費者向けの配送需要が増加し、またラストマイルの担い手として貨物軽自動車運送業者の存在感が高まっている。これに対して、宅配便事業者も従来の物流ネットワークの見直し（拠点数削減による効率化など）を進めている。本研究課題では、ネット通販需要の増加に対応した宅配便ネットワークの再編の現状と今後の方向性を整理し、ラストマイルを担う運送業者との関係性を含めて、その在り方を検討する。

研究の経過（4 月～3 月）：

第 1 回オンライン併用研究会（5 月 22 日）

「ラストマイル・ネットワークにおけるドライバーの労働者性の実態と認識」（須藤）

「マルチコンテンツロッカーを活用した配送モデルの実証について」（城戸・宮武）

「構造的な賃上げ環境の実現に向けた提言（中間論点整理）」（佐々木）

「韓国釜山新港における自由貿易地域の成功要因」（根本・石原（伸）・石原（祐））

「【ヤマト HD】持続可能なサプライチェーンの構築に向け共同輸配送のオープンプラットフォームを提供する新会社を設立」「【確定】記者説明資料」（高野）

第 2 回オンライン併用研究会（7 月 26 日）

「物流業の発展に伴う物流業務の変化に関する考察」（石原祐介）

「中国における返品送料保険制度と日本への適用可能性」（宮武）

『タイにおけるトヨタの経営「現地化」とトヨタ生産システム』、「ISL2024 Industrial Visit at Toyota Thailand (Gateway Plant)」、（林）

第 3 回オンライン併用研究会（9 月 18 日）

「小型物流拠点としてのロッカーの利用可能性について」（城戸）

「ラストマイル・ネットワークにおけるドライバーの労働者性」（須藤）

「トラック運賃の値上げが物価に及ぼす影響 ～「運べない危機」への一提案～」（根本）

第 4 回オンライン併用研究会（11 月 13 日）

「改正物流効率化法を踏まえた取り組み状況について」「簡易な検品レスの取組み事例」（根本）

「あらゆる水上モビリティを自律化」「中山間地の集会所を宅配拠点にして商品を届ける」（宮武）

「ラストマイルのドライバーにおける労働者性の特徴と示唆」（須藤）

「駅ロッカーの物流面の役割と物流拠点としての可能性」（城戸）

第 5 回オンライン併用研究会（1 月 22 日）

「ネット通販における送料表示に対する消費者意識」（ニャン）

「ピギーバック輸送の使用可能性に関する研究」（小澤）

「標準パレットの活用～荷役時間の削減～」（根本）

令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究の成果（自己評価含む）：

貨物軽自動車運送事業者の労働実態および制度変更の動向について、アンケート調査およびインタビュー調査を通じて把握・整理することができた。特に、個人事業主として従事するドライバーの働き方に注目し、その実態と課題を明らかにした点は本研究プロジェクトの大きな成果である。また、安全管理に関する制度変更の概要を整理し、当該制度に対する事業者の対応状況を確認することで、安全管理の制度を効果的に運用するための施策や課題についての知見を得ることができた。

今後の課題：

軽貨物自動車運送事業の実態調査については一定の進展があったものの、宅配便事業者によるネットワーク再編との関連性、特に貨物軽自動車運送事業者との相互関係の分析には課題が残った。費用削減や雇用調整の観点から貨物軽自動車運送事業者が活用される傾向にあるが、こうした事業者の導入が宅配便ネットワークの再編にどの程度影響を及ぼしたのかについては、さらなる実証的分析が必要であると言える。今後は、両者の機能的連携や再編プロセスにおける役割分担の実態を明らかにし、ネットワーク全体における最適化の可能性を検討していく必要がある。